

§3 物語的説明とは何か？

- 1、説明とは何か？ 三種類の説明
- 2、物語構造とは何か？

#<先週のミニレポート課題2>

この説明は物語になっているとダントは考えている。ではこの場合の、変化の主体は何だろうか？
それとも、上記の定義は不十分だということだろうか？

学生の回答：

- ・変化の主体を、「交通状況」「場所」と考える。
- ・(1)(2)(3)が連言になっている。
- ・二つのストーリーが描かれている。

ダントによる物語的説明の例

「車はトラックのうしろを、東に向かって走っていた。トラックが急に左に向きを変えた。車の運転手はトラックが左折するものと思いつづいてその右側を通った。ところがトラックが急カーブを切った。というのは交差点への難しい右カーブを切るために左によったのであり、その交差点を車の運転手は見えていなかったからである。そのため衝突が起こった」245

これを次のモデルに当てはめてみよう。

- (1) x は t_1 時に F である。
- (2) x に H が、 t_2 時に生じる。
- (3) x は t_3 時に G である

(1) t_1 時に、トラックと車は、トラックに車が続く順序で、東にむかって走っていた。

(2) t_2 時前後に、トラックと車は、つぎのことが起こった。

- ・トラックは交差点への難しい右カーブを切るために左向きを変えた。
- ・車の運転手は、その交差点を見ていなかったため、トラックが左折すると思いトラックの右側に回った。
- ・トラックは右に急カーブを切った。

(3) トラックと車は、 t_3 時に衝突した。

・トラックの運転手は、事故を次のように語るだろう。

(1) t_1 時に、私は東にむかって走っていました。私の後ろには車がありました。

(2) t_2 時前後に、私は、交差点への難しい右カーブを切るために左向きを変えて、それから右にカーブを切りました。

すると右側に車が来ていて。

(3) t_3 時に、私は、車にあたられました。

・車の運転手は、事故を次のように語るだろう。

(1) t_1 時に、私は、トラックの後ろを、東にむかって走っていた。

(2) t_2 時前後に、トラックが、左折するようにみえたので、私は、トラックの右側を走った。

(3) t3 時に、そうするとトラックは右に急カーブを切ったので、私はトラックにぶつかった。

この事故がどうして起こったかを理解するには、トラックと車がどう動いたかだけでなく、両方の運転手がどう考えてどう動いたかを理解する必要がある。つまり、行為の理由も理解する必要がある。t2 時のトラックの左への進路変更という行為を説明するには、行為の理由を説明する必要があるからである。

「なぜトラックの運転手は左に曲がったのですか」

彼女は、狭い交差点を右折しようとした。

そのためには、少し左によってから大きく右に曲がれば良い、と考えた。

それゆえに、彼女はハンドルを少し左に切った。

「なぜ、車の運転手は、トラックの右をと売り抜けようとしたのか」

前方のトラックが、左折しようとして左によった。

彼女は、そのまま前進しようとした。

そのためには、トラックの右を通り抜けるのがよい、と考えた。

それゆえに、彼女はトラックの右を通り抜けようとした。

この事故を説明するには、心理法則、物理学の法則、などが必要だが、それらの法則の連言をつくっても、これを説明する一つの法則にはならない。それらの法則の適用の順序が重要だからである。多くの交通事故の説明で頻繁に援用される、心理法則や物理法則があるかもしれないが、それらは交通事故を引き起こす法則ではなく、より一般的な法則である。交通事故の発生については、このような物語的な説明しかできない。

ところで、交通事故のこの物語的説明の中に、ダントのいう物語文は使われていないように見える。また、「浦島太郎」や「桃太郎」の物語にも、ダントの言う物語文は登場しないように思われる。少なくとも、物語文を使用せずに、これらの物語を語るができる。それを踏まえて、次のような定義の修正を提案したい。

3 物語文の定義の修正案（撤回の可能性あり）

ダントの定義を参考にして、物語文の拡張した定義を提案したい。

物語文：時間的に離れた二つの出来事を指示し、それらの一方ないし、両方について記述する文

これを二つに分けたい。

遡行物語文：時間的に離れた二つの出来事を指示し、それらの前の出来事を記述する文。

「長く続く戦いが終わった」

物語の開始を告げる機能を持つ。

「Jは、賞を取るバラを植えた」

前進物語文：時間的に離れた二つの出来事を指示し、それらのあとの出来事を記述する文。

「長く続いた戦いが終わった」

「桃太郎はスクスク育って、やがて強い男の子になりました。」

「Jの植えたバラは賞を取りました」

・**修正理由：**私たちは、遡行物語文を使用しなくても、物語を語るができるが、前進物語文を使用せずに、物語を語ることはできない。それは次の理由による。物語は、あるもの変化を語るものであり、つぎのような一般に次の形式を取る。

- (1) xはt1時にFである。
- (2) xにHが、t2時に生じる。
- (3) xはt3時にGである

(2)の「x」は、(1)の「x」を前方照応し、(3)の「x」は、(1)ないし(2)の「x」を前方照応する。「x」が「ソクラテス」のような固有名であったとしても、「ソクラテス」という名前の人はたくさんいるので、(1)での「ソクラテス」と同一人物を指すためには、前方照応しなければならない。前の文が時間的に先行する出来事を記述しているのならば、それに対する前方照応表現を用いた文は、前進物語文となる。上記の物語形式では、(2)と(3)が前進物語文となる。

#現在を知るには、過去を知る必要がある。ある対象を知るには、その現在の状態だけでなく、その過去の状態、あるいは、現在の状態に到る歴史を知る必要がある。「どこまでさかのぼる必要があるか」「過去の出来事の中で何が重要であるか」は、現在の関心との関連性に依存する。

#物語文の必要性

1、後に起こったできごとで前に起こった出来事意味が変化する

例えば、「15年戦争は、8月15日終わった」。しかし、もしその後戦闘が続いたとすると、8月15日の出来事の意味は変化する。1945年8月15日に戦争が終わったといえるためには、その後数日の出来事を見守る必要があっただろう。

2、前に起こった出来事で、後に起こった出来事の意味が変化する

オイディプスはイオカステと結婚する。しかし、イオカステは、オイディプスを生んだことがわかるこれによって、イオカステとの結婚が、近親相関という意味を持つ。

<ミニレポート課題>

この修正案についての感想、質問、批判を書いて下さい

4 物語的説明の特徴(1)：反復可能な出来事と反復不可能な一回的な出来事

(歴史的因果の説明も、物理的因果の説明も、原理的な区別はないとダントは述べていた。しかし、私たちは、反復可能な出来ごととの因果関係と、反復不可能な出来事の因果関係、という区別を立てることができる。まず、それを確認しよう。)

物語形式は、反復不可能な位置回的な出来事を説明するために用いられる。(もちろん、物語は、出来事の説明のため以外にも使用されることがある。)理論は、反復可能な出来事を説明するために用いられる。

では、反復不可能な出来事と反復可能な出来事はどのような関係にあるのだろうか。社会の歴史や人間の一生は、反復不可能な出来事の代表例である。物体の落下や、ビリヤードボールの衝突は、反復可能な出来事の代表例である。しかし、私が作った初めてのリングが木から落下すること、私が生まれて初めてビリヤードをしたときの最初の一突きによるビリヤードボールの衝突、これらは反復不可能な出来事である。同じ出来事が、反復不可能なものとして記述されることも、反復可能なものとして記述されることが可能であることがわかる。

ある出来事(朝起きて歯を磨くこと)が、例えば私の人生という反復不可能な出来事の一部として記述されるとき、それは反復不可能な出来事として記述されている。あらゆることは、反復不可能な宇宙の歴史、世界史の一部だから、その限りで、すべての出来事は反復不可能な出来事として記述できる。

では「ある出来事が、反復可能な出来事として記述されるのは、どのような場合だろうか？」

例えば、ビリヤードのボールの衝突は、多くのビリヤード場で、毎日何度も反復されている出来事である。私たちは、それらを反復可能な出来事として記述できる。ただしその場合には、ビリヤード場の違い、時間の違い、ボールの違い、ボールの位置の違い、ボールをつく人の違い、キューの違いなどを無視している。それらを無視する時、それらの出来事は、ビリヤードボールの衝突として、類似の出来事として、記述可能である。「…は、ビリヤードボールの衝突である」という述語を付与できる出来事を集め、それらの出来事についての可能な述語の全体から、互いに両立しえない述語を取り除くとき、それらの出来事についての共通の述語が残り、それらの述語の集合をつくることができる。この集合は、反復可能な出来事としての<ビリヤードボールの衝突>が備えている性質を表現している。このような単純化された出来事についての研究から、私たちは、一般的な知識を獲得できる。

自然科学は、物質を分割して、分子または原子を得て、同類の分子または原子に分類し、それらの振る舞いを調べて、そこからそれらの集まりが作る物質の性質を説明しようとする。それと同様に、他方で、自然科学は、自然現象を分割して、基本的現象を得て、それらを同類の現象に分類して、分類されたそれら基本現象について、一般的な知識を獲得できる。（近代自然科学は、世界や対象を要素に分割し、要素からふたび全体を合成しようとする。AI研究は、人間の思考についても同じことをしようとしている。）

このような意味での反復可能な出来事は、現実世界で何度も反復されているだけでなく、意図的に再現ないし反復できる出来事でもある。人為的に反復可能な出来事については、条件をかえた実験を重ねることによって、その出来事をコントロールできるようになる。例えば、朝顔を植えて、その成長を観察することは、反復再現可能であり、条件を変えて何度も行うことによって、意図したような朝顔をつくることができるようになるだろう。反復可能な出来事について考察して有用なのは、反復可能な出来事についての法則を見つけて、将来の出来事を予測でき、将来の出来事をコントロールできるようになるからである。

では、反復不可能な出来事は、なぜ反復不可能なのだろうか？

「女の一生」というタイトルの作品は多いが、それらの物語は反復可能ではない。すべての女性の人生には、「…は、女の一生である」を述語づけることができる。このような出来事を集めて集合をつくることができる。それらの全ての出来事に述語づけられる述語をすべて集め、そこから互いに両立しえない述語を取り除くと、それらの出来事に共通の述語が残るだろう。それらの述語の集合の下でとらえられた、出来事は、反復可能な出来事である。しかし、その出来事は、人間の女性の誕生から死までのできごとであり、共通しているのは、おそらく生物学的な現象だけであろう（あるいは、それすら難しいかもしれない）。「女の一生」を反復可能な出来事としてとらえても、ほとんど無内容になる。

「交通事故」や「戦争」もまた、反復可能なものとしての戦争について論じようとしても、そこに共通の述語ないし性質を見つけることは難しいだろう。

反復不可能な出来事については、法則による説明は不可能である。そこで、物語による説明が行われるが、「物語が説明になりうるのは、なぜだろうか？」「物語は説明になっているのだろうか？」

§ 4 過去についての記述は可能か？

（参照：ダント『物語としての歴史』「第4章 検証と時制」ページ数は、この訳書のもの）

1、検証主義

C. I. ルイス（『精神と世界秩序』1929）は、「過去についての文は検証可能で、つまるところ私たちは過去について知ることができるのだと主張する。」51

「客観的性質をものに帰属させることは、もし自分がある振る舞いをすると、特定の経験がその結果生ずることを暗に意味している」（ルイス）49

「私たちの現実につちえ知識の内容相対は、このような「もし～すれば、～になる」という命題の真理である。」 (ルイス) 49

「過去が検証できると仮定することはどういうことかという、ある出来事が生じたのちいつでも、少なくとも経験可能だと考えられるようなものが常にあり、そのことによって過去を知ることができるということである」 (ルイス) 51

これは、デューイの次の発言と似ている。

「(歴史的知識の) 対象は、現在や未来の結果や帰結に結びつきを持つ過去の出来事である」 (デューイ)

「もしかりに過去の出来事になんら発見できるような帰結がなければ、あるいは過去の出来事について関 g 苗ても、どこにもそれに相当するような差が生じなければ、正しい判断の可能性はまったくない」 (デューイ) 52

ルイスの提案

「まず E を出来事として、 $\{e\}$ を t 時におけるその出来事の結果とする。そのとき、 E を $\{e\}$ と一緒にして、これを E の起こったとき t_1 時から、 t 時までの時間の広がりをもった単一の対象だとみなすようルイスは提案する。」 53 彼はこの対象を O と呼ぶことにする。

エイヤーもまた、検証主義の全盛期 (『言語、真理、論理』) に次のように述べる。

「過去についての命題は通常それを検証すると言われる、『歴史的』な経験を予言する規則であるという見解には、何らとくに逆説的なものは見出されない。」 (エイヤー) 61

2 現象主義

しかし、エイヤーは、検証主義の行き詰まりから、「原理上検証可能」という概念を導入した (『言語、真理、論理』第二版「序文」1946)。「これはプログラムの変更を意味している。つまり過去についての文は現在や未来についての文に翻訳されないが、直接法から仮定法へと翻訳されうるということである。」 63

「1962年にローマに居る代わりにニューヨークに居たと想定しても不合理ではないように、1962年にローマに居る代わりに紀元前44年にそこに[ローマに]居たと想定しても不合理ではないのである。[...] 私は紀元前44年の出来事を見てはいないが、かりに見たとしても論理的になんら不合理ではない。その結果私は、シーザーの死を、それを目撃することによって検証することはできないが、もし私がそのときそこにいれば、それを検証することができたであろう。したがって「シーザーは死んだ」という文は、原理上検証可能なのである」 (エイヤー) 64

つまり、次の(1)の文を(2)の仮定法に翻訳できるとする。

(1) シーザーはローマで紀元前44年に死んだ。

(2) もし私が紀元前44年にローマにいたならば、私はシーザーが死ぬ経験を得たであろう。

このプログラムを、ダントは、「検証主義」と区別して「現象主義」と呼ぶが、それはうまくいかないと批判する。

「時制を持つ文から得られるような情報を、現象主義特有の術語にはめ込むことができないとすれば、これは現象主義の敗北となる」 71

では、ダントは、過去に関する文の意味や真理性を、どのように理解するのだろうか？

